

春秋彩

Syunjusai

特集
新しい
全学共通教育スタート …… 2

活躍する卒業生 ……………	7
国際交流 ……………	8
地域連携 ……………	10
研究活動紹介 ……………	11
大学の動き ……………	12
後援会便り ……………	13
活き活き元気種 ……………	14
熊本県立大学未来基金寄付者ご芳名 ……	15
人事情報 ……………	15
おすすめの1冊 ……………	15



 熊本県立大学

春秋彩とは 万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学広報誌

2015 AUTUMN

vol. 43

あいさつ



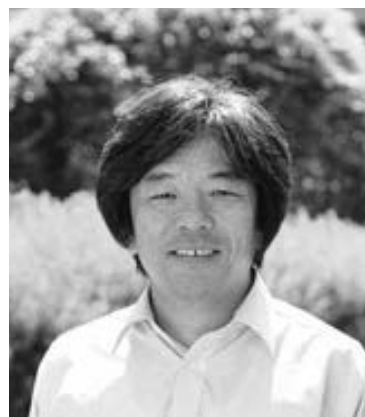
学長
古賀 実

今年の4月から地域に学ぶことを重視し、実践的かつ総合的な教育を目指した全学共通教育（教養教育）の新カリキュラムが開始されました。新カリキュラムでは外国語教育の充実を図るとともに、地域社会への理解を深め、他者と共生・協働する重要性を認識しつつ実践的能力を身につけた地域リーダーの養成を目指すこととしています。全学生が「もやいすと（地域）ジュニア育成」、「もやいすと（防災）ジュニア育成」科目のどちらかを学び、地域理解力、防災・減災に関する基礎的知識を身につけると共に「市民性」の涵養をも視野に入れた教育を行っています。

大学での学びの形態はここ数年大きな変化を見せています。教授から学生への一方向的な知識伝達教育ではなく学生諸君が積極的に授業に取り組む双方向型の授業形態が全学共通教育の中でも取り入れられて来るでしょう。こうしたアクティブラーニング、課題解決型学習（PBL）の導入により観察力、対話力などの向上が期待されますが、教授の持論に基づく系統的学修も学問の体系を理解する上で必須のものであると考えます。

春秋彩 Syunjusai 特集 Feature

新しい 全学共通教育 スタート



副学長
（全学教育推進センター長）
津曲 隆

本年度から新しい全学共通教育がスタートしました。共通教育は、専門教育と共に大学教育を担い、教養教育の土台となるものです。20世紀半ば以降、社会の複雑化、学問の専門分化、大学教育の大衆化が進む中で、大学の教養教育は問い直され続けてきました。世紀が変わった2002年（平成14年）、中教審から「新しい時代における教養教育の在り方について」が答申され、「自らの立脚点を確認し、今後の目標を見定め、その実現に向けて主体的に行動する力」が新しい時代の教養と定義されました。

その後、矢継ぎ早に「高等教育の将来像答申(2005)」、「学士課程答申(2008)」、「質的転換答申(2012)」と高等教育の将来を方向づける中教審答申があり、21世紀型市民育成が大学教育の主要な役割と位置付けられるようになっていきます。

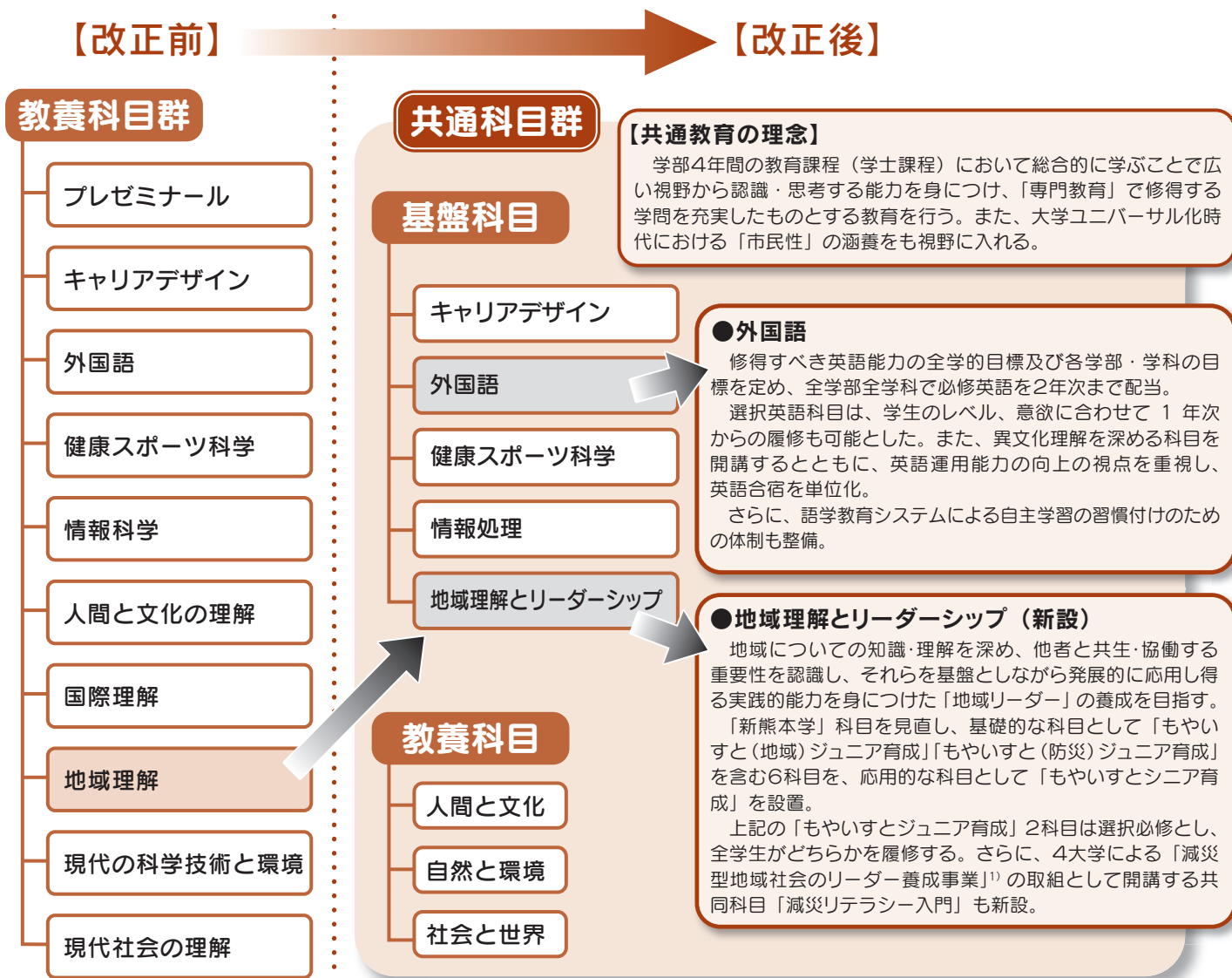
この流れの中であって、本学では、2012年（平成24

年)に全学共通科目構想プロジェクトで教養教育のあり方について検討を開始し、広い視野から認識・思考する能力を身につけさせ、大学ユニバーサル化時代における「市民性」を涵養していくこと等を共通教育の理念として、新カリキュラムを編成しました。

新しい共通教育は「基盤科目」と「教養科目」で編成しています。「基盤科目」では大学で学ぶため、社会で行動していくための基礎能力を育成します。「教養科目」では専門分野の枠を超え共通に求められる知識を幅広く学び、多様な角度から物事を見ることのできる豊かな人間性を養います。共通教育には、さらに2つの特徴を盛り込みました。ひとつは外国語の強化。到達レベルを全学的に定め、全学生に2年次まで英語科目を履修させるようにし、さらに実践的な英語運用能力を育成するため

英語合宿を「Intensive English」として単位化しました。もうひとつは、「地域理解とリーダーシップ」の科目分野を新設し、もやいすと育成など地域リーダー養成を目指す科目を設けたことです。これらを通して、本学のモットーである「地域に生き、世界に伸びる」教育を今まで以上に推進できるものと考えています。

2014年(平成26年)に設置した全学教育推進センターが共通教育の企画・運営を行っています。センターには教学IR室を併設し、教育情報の分析や教育方法の改善にも取り組んでおり、教育を進める上で重要な役割を担っています。新しい共通教育と全学教育推進センターを、これからの時代の人材育成に向けた本学教育の土台として定着させていきたいと考えています。



1) 平成24年度に熊本大学・熊本学園大学・熊本保健科学大学と本学の4大学が連携協定を締結し、共同実施している減災教育プログラムのこと。

新しい全学共通教育スタート

「地域理解とリーダーシップ」の創設

基盤科目の分類に属する「地域理解とリーダーシップ」分野では、地域への知識・理解を深め、地域の抱える課題に関心を持ち、地域の人々と協働して課題解決の方策を考えていく「地域づくりのキーパーソン」を育成していきます。

この分野には、地域に関する知識科目として、

新熊本学：ことば・表現・歴史、熊本の生活と環境、地域のビジネスリーダーに学ぶ、地域社会と協働(全4科目)

また、フィールドワークやワークショップ等を組み込んだ実践科目として、

もやいすと(地域)ジュニア育成、もやいすと(防災)ジュニア育成、もやいすとシニア育成(全3科目)

があり、理論と実践を通して地域について深く学べるようにしています。

さらに、4大学による「減災型地域社会のリーダー養成事業」の取り組みとして開講する共同科目 **減災リテラシー入門** も設置しています。



「新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ」の授業風景（熊本ホテルキャッスル斉藤 隆士 代表取締役社長による講義）



「もやいすと(地域)ジュニア育成」の授業風景

【共通科目群のカリキュラム】

共通科目群

基盤科目	キャリアデザイン	「プレゼминаール」「キャリア形成論」「インターンシップ」	
	外国語	英語、初修外国語：独・仏・中・韓	
	健康スポーツ科学	「健康とスポーツ科学」「生涯スポーツ実習」	
	情報処理	「情報処理入門」	
	地域理解とリーダーシップ	<p>目的</p> <p>地域への知識・理解を深め、他者と共生・協働する重要性を認識し、それらを基盤としながら発展的に応用し得る実践的能力を獲得することを目的とする。</p>	<p>科目名</p> <p>「もやいすと(地域)ジュニア育成」 「もやいすと(防災)ジュニア育成」 「もやいすとシニア育成」(2年次以上配当科目)</p> <p>「新熊本学：ことば・表現・歴史」 「新熊本学：熊本の生活と環境」 「新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ」 「新熊本学：地域社会と協働」</p> <p>「減災リテラシー入門」</p>
教養科目	人間と文化	12科目	
	自然と環境	8科目	
	社会と世界	9科目	

「もやいすと育成」プログラムの実施状況

「もやいすと育成」プログラムは、1年生全員が必ずどちらかを履修する「もやいすと(地域)ジュニア育成」、「もやいすと(防災)ジュニア育成」の2科目によるジュニア育成からスタートします。

まず1年生全員が学長講話(テーマ『もやいすとプログラムのあゆみと地域への思い』)で「もやいすと」のイメージを掴んだ後、津曲総合管理学部教授(地域担当)及び松添環境共生学部教授(防災担当)による「もやいすと」各論を聴講し、地域と防災のどちらを履修するか選択し、6月以降は2科目に分かれ、熊本への理解のうえに、講義、体験学習等を通じて「地域づくり」あるいは「防災」に関する基礎スキルを身につけ、他者と共生・協働する重要性を理解するためのプログラムを受講していきます。

ジュニアの次の段階である「もやいすとシニア育成」は2年次科目です。6月に開講し、意欲ある学生23名が履修しています。履修者は、自らの学びだけでなく「もやいすとジュニア育成」の授業に、1年生の学びを支援する『ファシリテーター』としても参加しています。

ジュニア/シニア育成の科目全てにフィールドワークや演習、グループ活動を組み込み、そして授業の最後には成果発表会を開催する等、学生たちの学びを深める工夫した育成プログラムとしています。



平成27年7月13日 もやいすとシニア任命式



「もやいすと(地域)ジュニア育成」のフィールドワーク風景
(菊池高校での域学ワークショップ「竹とろう製作」)

外国語教育の充実(Intensive English 英語合宿)

本学のモットー「地域に生き、世界に伸びる」に基づき、学生の実践的な英語運用能力向上を図るため、学生を英語漬けにする「英語合宿」を平成25年度、平成26年度と試行してきましたが、今年度からは、この「英語合宿」を全学共通の授業科目「Intensive English」として単位化して実施しています。

今年度の履修者は3学部の1年生15名で、8月24日から9月4日まで、土曜、日曜日を除く2週間にわたって集中講義として実施しました。期間中は英語のみを使用するというルールのもと、講義やゲーム、多読多聴、スピーチやパフォーマンスなど、昨年度までの試行内容の検証も踏まえ、更に学修効果が高まるプログラムとして実施しました。

1週目は、学内での授業、2週目は、天草市大江の交流センター「ブルーアイランド天草」において、立命館アジア太平洋大学の留学生ら8名を交えて4泊5日の合宿を実施しました。留学生と寝食を共にし、英語漬けでの生活を徹底することで、相互の異文化理解も図られるなど、参加学生にとっては、カリキュラム以上に充実した内容となったようです。





教学IR室長

山田 俊
(文学部教授)

教学IR室の取組

熊本県立大学は平成26年度より教学IR¹⁾室(以下「IR室」)を設置致しました。IR室は、本学「全学教育推進センター」の「FD・学修評価部会」の実質的機動部隊として、大学に対する産業界の要望に応えるべく、教学IRの観点から学生に関するデータの収集・分析、その結果の学部へのフィードバック、教育改善に向けての全学的FDの企画を行っています。

具体的には、まず、平成22年度文部科学省「就業力育成支援事業」に選定された「自律と自立を目指す学生GP制度の創設」を機に始められた「学生GP」活動を主催しています。これは、地域が抱える課題を学生グループが卒業研究として地域と共に解決する取組で、毎年20近いグループが優れた成果を上げています。

次に各学年の生活実態調査、卒業生アンケート、入社1年目アンケートなどを実施し、その結果を複合分析することで、学生を多面的に理解するためのデータ蓄積に努めています。また、平成25年度から(株)リアセックが開発したPROGテストを導入し、従来評価が困難であった学生の汎用的技能の測定を行い、その他の調査結果と併せることで本学独自の評価手法の構築を目指しています。

三つめに、学生の社会人基礎力を涵養する本学独自のカリキュラム「もやいすと育成プログラム」の構築と、その評価方法の開発に継続して取り組んでいます。

最後に、全学FDを毎年開催し、上記のような取組の意義を全学的に理解してもらうことに努めています。IR室開設前から、「社会が大学生に求める能力とその育成について」(平成24年度)、「教学IRとしての学修評価と教育改善に向けた活用について」(平成25年度)、「アクティブラーニングによる教育の改善と効果」(平成26年度)等の開催に関わってきました。

今後も、学生の実態に寄り添った学生理解と、学生のための教育改善としてのIR活動に努力していきたいと思っています。

1) IRは「Institutional Research」の略で、機関の計画策定・政策形成を支援するための情報を提供する目的で、機関の内部で行われるリサーチのこと。教学IRは大学の教育研究活動の改善を重視したIRを指し、学修成果の評価を通してカリキュラムや各種教育プログラムの質保証や改善支援が期待される。

活 | 躍 | す | る | 卒 | 業 | 生 |



株式会社 肥後銀行
東支店

せのお げんき
妹尾 元気さん

総合管理学部 総合管理科卒
(平成24年3月)

人と人との関わりが大切

私は現在、株式会社肥後銀行東支店で勤務しています。主に資産運用・住宅ローン・法人融資の3つの業務を任されています。

当行は今年7月に創立90周年を迎え、10月には鹿児島銀行と経営統合し、九州フィナンシャルグループとして新たなスタートを迎えます。

銀行というとお金を融資する仕事というイメージが強いですが、実際は人と人が関わりあうとても大切な職業です。

具体的には、会社の経営者から業況を聞いたり、新築住宅の購入を考えているお客様にローンの仕組みを説明したり、どの業務にも必ず人が関わっていますし、相手の考えや意向を十分聞いて初めて「融資」という形に繋がります。

我々銀行員は、お金という大切な物を扱っており、自分の管理不足で担当の企業が倒産してしまうという事も十分有り得るため、強い責任感とスピーディーな対応が求められます。

当面の私の目標は、企業の業績拡大に貢献することはもちろん、1人でも多くのお客様と関わり、自分が転勤した後もお客様の口から「妹尾さんは～」と良い意味で名前が出るほど印象に残る銀行員を目指し

ています。

お金を貸すだけが銀行員の仕事ではありませんし、これからも情報の提供や心のこもったサービスで見えないプラスαの付加価値を提供していきたいと思っています。

大学生生活4年間

大学生生活4年間は長いようで、あっという間に過ぎていきます。与えられた時間は皆平等なので、その時間を有意義に過ごし1つでも多く自分の財産となるものを手に入れてもらいたいと思います。

私は学生時代にソフトボールサークルの部長を1年務め、たくさんの素敵な仲間たちと出逢いました。卒業後の進路は皆それぞれ違いますが、今でも連絡を取り合い、お互いの近況報告や仕事の悩みを話したり、定期的に息抜きを心がけています。

些細な悩みを職場で吐き出す事も出来ませんし、心を許して何でも話せる人の存在が仕事の活力となっていると言っても過言ではありません。そんな友人との出会いが私にとってはかけがえのない財産です。

ここ数年、県立大学卒の新入行員も多くなっています。将来どこかの支店で皆さんと一緒に働けることをとても楽しみにしています。



国際交流

モンタナ留学生の体験記



稲谷香子 (文学部 英語英米文学科4年)

今回が初めての海外経験でしたが、現地の人達はみんな優しく、充実した生活を送ることができました。この留学で、英語を話すことができれば、自分の世界は大きく広がるのだと気づきました。また、異文化に触れ、自分の価値観も大きく変わりました。一度日本を出て、外から物事を考えるのは大事なことだと思います。これからも英語力を高め、もっといろんな場所を訪れてみたいです。支援してくださった方々、本当にありがとうございました。



萩尾凧紗 (文学部 英語英米文学科3年)

私は中学時代から英語の魅力にのめりこみ、この交換留学に応募しました。授業ではほぼ毎日宿題が出て、こなすのが大変でした。また、最初の頃は周りの言っていることがわからず悔しい思いもしましたが、先生も学生も優しく、頑張っ乗り越えることができました。

この留学で、自分の英語に自信が持てるようになり、失敗を恐れず何事にも挑戦するという積極性が身につきました。ぜひ機会があれば留学してもらいたいです。

祥明大学校の短期研修団が本学を訪問

6月25日(木)から8日間、祥明大学校から日本語を学ぶ学生7名・教員3名の研修団が来学しました。本学のサークルとの交流を通して、茶道や着物、華道などの日本文化を体験したほか、月出小学校の子どもたちとの交流があり、最終日には、日本語学習の成果を発表する劇を行うなど、充実した研修となりました。9月には本学の研修団が祥明大学校を訪問するなど、両校は活発な交流を続けています。





米国アナポリス海軍兵学校学生への理事長特別講話

7月15日(水)、来熊中の米国アナポリス海軍兵学校(USNA)の学生に対し、CPDセンターにて、五百旗頭理事長による英語での講話や質疑応答があり、現在の我が国とその周辺諸国が置かれている安全保障上の状況や、アジア諸国の国防に関する歴史、今後のアジア太平洋におけるあるべき姿等について、約1時間に亘り活発な議論が交わされました。



古賀学長、堤環境共生学部長がタイ・カセサート大学を訪問



5月15日(金)、古賀学長と堤環境共生学部長が、本学の協定校であるタイのカセサート大学を訪問しました。農水産の分野で歴史のある当該大学と、共同研究に関する打合せを行ったほか、平成26年度にスタートした「水銀研究留学生奨学金制度」についてもPRを行い、将来の水銀対策のエキスパートを目指す学生の派遣を呼びかけました。今後は学術交流だけでなく、学生交流においても、さらなる活性化が見込まれます。

第8回 韓国・祥明大學校との学術フォーラム

6月27日(土)、中ホールにおいて、第8回となる韓国・祥明大學校との学術フォーラム「人文学とパフォーマンス」を開催しました。あいにくの雨にも関わらず、学生、一般の方など約200人が来場のうえ、両国の研究者たちによる講演に熱心に耳を傾けていました。

プログラム (講演)

1. 「中世藝能と連歌」 鈴木 元 文学部教授
2. 「演劇と市民文化教室」 柳 根恵 (Ryu Keun Hye) 祥明大學校芸術大学助教授
3. 「ポルノグラフィック・アートは可能か？」
ー現代アメリカパフォーマンス・アートにおける<身体>呈示の仕方ー 坂井 隆 文学部准教授
4. 「芸術と責任」 全 貞玉 (Jun Jung Ok) 祥明大學校教養大学助教授
(パネルディスカッション) 司会 五島 慶一 文学部准教授



地域に触れ、地域を知る。 秘境の里の「コバサク体験」

「五木の子守唄」や日本一の清流・川辺川で知られる五木村で、7月と8月の2日間にわたり行われた伝統的な焼畑農法(「コバサク」。コバ=「畑」の意味)体験に、同村の財政を研究テーマとする小泉教授とゼミ生ら本学の教職員、学生延べ11名が参加しました。

1日目はまず、藪になった川沿いの土地をチェーンソーや鋤、鎌で切り拓く「ヤボ切り」と呼ばれる作業を行いました。次に、刈り取った木や草を整地した地面に均等に広げ、天日干しをしました。

2日目には、消防団も参加して、山の神々に祈りを捧げた後、竹にかずら(草つる)を巻いて作った松明で、乾燥させた草木に次々と火をつける「火入れ」が行われました。燃えた後の灰は、畑の肥料となります。この後、害獣対策にネットが張られ、蕎麦の種が蒔かれました。

地元の方々との交流や地域の歴史、文化への知見を深めることができた今回の体験は、貴重な実践型教育ともなりました。作付された蕎麦は11月頃には収穫される予定となっています。



「フューチャーセッション」を通して地域の未来を考える

町内外の社会人、学生、高校生ら100名を超える参加者が一緒になって、大津町の地域づくりをテーマに意見交換などを行うワークショップ「フューチャーセッション」が、6月に同町の生涯学習センターで開催されました。このイベントは、様々な人々の対話を通じたアイデアで地方創生に取組みたいという町の依頼を受けた、総合管理学部の丸山泰教授のコーディネートで実現したもので、本学からも学生25名が参加しました。

セッションの始めに、自己紹介をしたり、握手をしたりするなどして、初対面の参加者同士の緊張をほぐし、フランクな雰囲気が作られました。グループに分かれて、「町の将来に関する不安や心配」、「町の誇りや宝と思うモノ・コト」などをテーマに様々な意見を出しあっていきました。最後に、「こんな町にしたい」という目標を決め、具体的に取り組む事業をイメージ化した「未来新聞」を作り、グループごとに発表しました。

約4時間に及ぶセッションに参加した学生たちからは「世代や立場を越えた様々な人と対話できとても勉強になった」、町内の参加者からは「町のソウルフードである“からいも”を町づくりに活かしていきたい」など貴重な感想が寄せられました。



「食」を通して、地域を知る。地域連携週間「山都町Week!」

山都町で作られた有機野菜を使ったメニューを学生食堂で提供する地域連携週間「山都町Week!」を今年7月6日～10日に開催しました。今年度からの新たな取組として始めた「地域連携週間」は、本学と包括協定を締結する市町村の野菜や肉などの特産品を使った学食メニューを学生や地域の方々に味わってもらい、各市町村の魅力や特色を知っていただくというものです。今回の山都町が第1回目の取組となりました。

期間中、山都町の有機野菜生産団体「肥後やまと会」が生産した10種類の減・無農薬野菜を使用した、回鍋肉やトマトスープの冷製パスタ、野菜フライカレーなどが日替わりで提供されました。人気のメニューはすぐに売り切れるなど、利用者は普段の約1割増と好評でした。

また、7月8日(水)には、工藤町長をはじめ町の職員が来学され、学食ステージで、通潤橋や八朔祭りなどの観光情報や特産品などをPRされました。町の物産品が当たる抽選会も行われ、この日の学食は、学生や地域住民の方で大いににぎわいました。



社会が求める情報科学

～人間とコンピュータとが豊かに共存し、
安全で安心できる快適な社会の実現を目指して～

総合管理学部 総合管理学科 教授 飯村 伊智郎



Profile / 上智大学大学院理工学研究科博士前期課程修了、鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。
博士(工学)。(株)日立製作所日立研究所、熊本県立技術短期大学校を経て、2012年4月より現職。

〈知能情報学研究室〉 私はこの18年ほどの間、主に最適化の研究に取り組んできました^[1]。現在も日本学術振興会の科学研究費の助成を受けて、新たな最適化手法の研究を進めています。また最近では、応用研究の一つとして、同助成を受け、日本語教育研究者と連携して日本語非母語話者のための最適な学習支援環境に供するシステムの研究・開発なども行っています。その一方で、地域に根ざした大学の一研究室として、地域社会が抱える課題に対して、これまでの研究活動で得た知見やスキルをもとに、ICTを活用して解決を図る教育研究活動も行っています^{[2][3]}。本稿では、まず最適化についてその一端を紹介し、次に地域社会が抱える課題の解決を図る教育研究活動の概要を紹介させていただきます。

〈最適化!?〉 最適化は、工学のみならず経済学や社会学などの広い分野にわたって存在し、その重要性は広く認識されています。この最適化の分野において、1980年代後半にメタヒューリスティクスと呼ばれる最適化手法に関する新たなパラダイムが生まれました。メタヒューリスティクスとは最適化問題¹⁾に対しての発見的解法の枠組みであり、従来の数理的、分析的手法に基づく厳密解法に対し、ある暫定解からより良い解を発見的に探索するための方法論で、人工知能(AI)の一分野に位置付けられています。このメタヒューリスティクスの特徴の一つとして、物理現象、生物現象、または生物の集団・社会現象などにアナロジーを持つものが多いことが挙げられます。数学を基礎としたこれまでの最適化手法にはない、多様なアナロジーが存在するという斬新なインパクトを持つメタヒューリスティクス、次はその魅力に触れたいと思います。最適化問題として捉えることのできる実社会での計画・運用に関わる問題、そのうち規模の大きなものは実時間で厳密な最適解を求めることが極めて困難であることが、計算の複雑さの理論により明らかにされています。しかし、現実には、求められる解の最適性の保証はなくとも、言い換えれば厳密な最適解でなくても、十分精度の高い解が実時間で求めれば満足のいく場合が多いのです。例えば配送計画で、

長大な時間を要して1mm短い経路を提示されるよりも、1m長い短時間で経路を提示してくれた方が現実的なわけです。つまり、現実には最適な答え(解)を求めることができる、これがメタヒューリスティクスの最大の魅力です。今後も、快適な社会の実現を目指して、より効率的な最適化手法の研究に邁進したいと考えています。

〈地域社会が抱える課題の解決〉 次は、これまでの研究活動で得た知見やスキルをもとに、ICTを活用して地域社会が抱える課題の解決を図る教育研究活動に話を移します。この活動は複数人からなるチームで行うのが通例で、チームにおける学習者(学生)同士の意欲のバラツキを軽減すべく、具体的な課題解決に向けてチーム学習を行う課題解決型学習(1960年代後半にカナダで始められた授業形態)を学習手段としています。さらに、より継続的に学びたいと感じさせる魅力的な学習環境をデザインするための手法の一つであるARCSモデル(教育工学者であるKellerが提唱)を導入しています。当研究室では、これらに基づいてデザインされた学習環境で、「地域社会が抱える課題」を、学生の「主体的学びの場」と捉えています。この活動は、学生のICTに関する知識の習得や技術の向上はもちろん、2013年(平成25年)の教育再生実行会議第三次提言でその必要性が述べられている、課題発見・探求能力、実行力といった社会人として必要な能力である社会人基礎力を有する人材育成にもつながり、また、この活動による成果は地域社会に貢献するものと考えています。これらに取り組む学生たちがICTを用いて地域社会の課題を解決することで、社会を変えて、自分(学生)も変わる(成長する)、そのような地域情報化活動を、今後もさらに地域と連携しながら進めていきたいと考えています。



■知能情報学研究室(飯村研究室)に関するウェブサイト

- [1] 知能情報学研究室, <http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~ilab/>
 [2] アプリ開発部, <http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~iimulab/apps/>
 [3] ムービー制作部, <http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~iimulab/movs/>

1) 最適化問題とは「条件を満たす解の中で一番よいものを求める問題」を指し、さらに、組合せ(離散)最適化問題とは「解が順序や割当てのように組合せ的な構造を持つ最適化問題」のことを指します。実社会における最適化問題の事例としては、配送計画(コンビニへの商品配達、宅配)、工場での製品の機械への割当て、カーナビのルート探索、看護師の勤務表作成、株価の予測などが挙げられます。

ハーバード大学歴史学部アンドルー・ゴードン教授特別講義



5月26日(火)、総合管理学部3年生の授業「地域政治論」(松岡教授)の一環として、中講義室2において、米国の著名な日本研究者であり、ハーバード大学歴史学部教授のアンドルー・ゴードン先生による特別講義を行いました。

特別講義テーマは、「ミシンと日本の近代～消費者の創出～」。

ミシンを通じて女性の自活や労働争議など当時の日本や世界の状況を解説していただきました。

平成27年度オープンキャンパスを開催

7月19日(日)と26日(日)の2日間、本学オープンキャンパスを開催しました。(7月19日(日):文学部・環境共生学部(約1,150名参加)、7月26日(日):総合管理学部(約1,200名参加))

延べ2日間で約2,350名もの多くの方に来学いただき、本学教員によるサマーカレッジ(授業体験)、学部・学科紹介、入試説明、施設・研究室紹介や、在学生による大学生活紹介、キャンパスツアーなど、多彩なプログラムを実施しました。



総合管理学部澤田ゼミ生が「小さな親切」実行章を受賞



6月29日(月)付けで、公益社団法人「小さな親切」運動本部(県本部事務局:熊本銀行)から、「小さな親切」実行章が贈られました。

「小さな親切」実行章とは、日常生活で「親切な行動」を行っている個人や団体等に対して、感謝の意を込めて贈られるもので、総合管理学部の澤田道夫准教授に所属するゼミの学生たちが「地域の憩いの場」としての活用を目的として、昨年12月に木製ベンチを製作のうえ、大学近郊の老人クラブへ寄贈した活動に対して顕彰されたものです。

軟式野球部が全日本大学軟式野球選手権大会に出場



8月15日(土)、長野県で行われた全日本大学軟式野球選手権において、軟式野球部が2年ぶり9度目の出場を果たしました。沖縄国際大学との初戦、5回終了まではリードしていたものの、惜しくも5-7の逆転負けとなりました。

しかし、清田主将は「全国レベルとの対戦は非常に良い経験になった。楽しみながら全員で野球ができた。」と振り返り、明るく締め括りました。今後もさらなる活躍が期待されます。

熊本県立大学国際シンポジウム2015のご案内 「日米中関係の新展開 ～中国の台頭とアジア太平洋秩序～」

東アジア研究の権威で、1980年代にベストセラーとなった『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の著者であるエズラ・ヴォーゲル氏をはじめ、日米中関係の専門家を熊本にお招きし、五百旗頭理事長をコーディネーターとして、国際シンポジウムを開催します。多数の御参加をお待ちしております。



1. 日時:平成27年11月7日(土)午後1時～午後4時
2. 場所:ホテル日航熊本5階阿蘇の間(熊本市中央区上通町2-1)
3. 参加費:無料(参加御希望の場合は、下記問合せ先まで御連絡下さい。)
4. 内容(※すべて日本語による講演です。)

【基調講演】エズラ・ヴォーゲル(ハーバード大学名誉教授)

【パネルディスカッション】

コーディネーター い お き べまこと 五百旗頭真(熊本県立大学理事長)

パネリスト エズラ・ヴォーゲル(ハーバード大学名誉教授)

こくぶん りょうせい 國分 良成(防衛大学校長)

ふみあき 久保 文明(東京大学教授)

5. 問合せ先:熊本県立大学 企画調整室 TEL096-383-2929

夏目漱石 周年記念イベントを開催 「シンポジウム 漱石の心と思想」

文学部では、平成28年の夏目漱石来熊120年並びに没後100年を迎えるに当たって、かつて旧制五高に勤務し、熊本と縁の深い漱石の「文学」や「人となり」をたどり、明治期の偉大なる小説家の心と思想に触れるシンポジウムを開催いたします。人物像のみならず交友関係、歴史的背景など多方面からのアプローチにより、幅広く漱石への関心を高めるための機会とします。



1. 開催日時:平成27年11月22日(日)午後1時～午後4時
2. 場所:大ホール
3. 参加費:無料(事前申込不要)
4. 内容:
 - 【基調講演】「漱石のイギリス留学とその前後-熊本・倫敦・東京」
仁平 道明 氏 東北大学名誉教授・和洋女子大学教授
 - 【特別発表】「国語教科書に見る漱石作品の変遷」
西村 るり 氏 熊本市立京陵中学校教諭
 - 【パネルディスカッション】テーマ「漱石の心と思想」
パネリスト 小原 啓介 氏 夏目漱石内坪井旧居館長
仁平 道明 氏
五島 慶一 文学部准教授
木村 洋 文学部准教授
 - 質問者 鈴木 元 文学部教授
 - コーディネーター 半藤 英明 文学部教授
5. 問合せ先:熊本県立大学文学部 半藤研究室 TEL096-321-6630

後援会便り

後援会とは

- 本学学生の保護者又はこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果を上げることを目的としています。



色はシルバーとピンクがあります。

無料貸出の防犯対策用ブザー

後援会では学生活動支援事業の1つとして、昨年度から防犯対策用ブザーの無料貸出しを行っています。

貸し出しを利用した学生からは、いざという時に中々大きい声が出せないため、夜道を歩くときや、人気の少ない場所を通る時には、ブザーを持つととても安心でき、コンパクトでかわいいため、キーホルダーのように使えてとても便利との声がありました。

防犯意識を高めるためにも、まずはこの貸し出しを利用して、自分でできる防犯対策として活用して欲しいと思います。

後援会の事業

次の4つの事業を中心に学生の活動全般を支援しています。

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策講座、就職活動実践講座、ITパスポート試験対策講座、二級建築士受験対策講座、秘書技能検定対策講座等)受講料の助成又は開催経費の助成
- PROG テスト(社会人基礎力の測定)の実施支援、TOEIC®IP テスト開催の支援及び受検料の助成、各学部による就職支援事業開催経費の助成、資格取得者への助成 等

《教育研究推進事業》

- 共同自主研究への助成
- インターゼミナル大会等への参加助成 等

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。

まだ未加入の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。途中年次であっても随時入会を受け付けています。

《国際交流推進事業》

- 海外留学・研修期間に応じて渡航経費等の助成
- 留学対策講座の受講料の助成
- 協定校研修団への授業・日本文化紹介等経費の助成 等

《学生活動支援事業》

- 各サークルの活動費・白晝祭開催経費・全国大会出場経費等の助成
- 学生用コピー機の設置、コピーカード販売
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置
- 防犯対策用ブザーの無料貸出し 等

学生GP制度で 『伝統工芸ワクワク化プロジェクト』 に取り組みました



(工芸館内でのコラボレーション商品の展示風景)

熊本県は多くの伝統工芸を有していますが、熊本県伝統工芸館(以下「工芸館」)の施設も含め、工芸品の魅力が十分に伝達できていない現状にあります。そこで私達は、工芸ファンの高齢化に伴う来館者の減少に歯止めをかけ、新たなターゲット層として若い世代に関心を持ってもらう必要があると考え、本研究に取り組みました。昨年度は、工芸館活性化のための施策検討のため、アンケートによる工芸館のイメージ調査や、人を引きつける施設の要素抽出のためのフィールドワーク、さらには工芸家へのインタビューを実施。これらの研究結果から、若年層の指示を得るためには、知識を得る場から感動する場へ、作品を見る場から体験する場へ、そして、技術がすごい作品から使ってみたい好きな商品へシフトチェンジが必要があると考えました。そこで、私たちは、工芸館活性化のために、①館内の順路化と伝統と現代を融合させた本格カフェを設置する「エンターテイメント化」



(公開審査会後の1枚)



総管理学部
総管理学科 4年
丸山研究室

松本 聖奈

(熊日掲載記事)

②工芸家と消費者を結ぶ架け橋としての役割を工芸館が果たすようにする「ステーション化」③『HAPPYくらふと』と題した伝統と現代を融合させる新ジャンルを創り、より消費者ニーズに近い工芸品の提供を目指す「コラボレーション化」、これら3つの施策を提案。昨年の12月に実施された学生GP(地域連携型卒業研究)*公開審査会において、最優秀賞を受賞しました。また、「コラボレーション化」に関しては、私たち学生がハートをテーマに作成したデザインをプロの工芸家の方々に商品化して頂き、バレンタインシーズンに工芸館で展示、販売して頂くことが出来ました。今年度は、私たちの後輩が「ステーション化」の実現、すなわち、工芸館で実際に本格カフェを実験的にオープンさせようと企画し、実現のために奔走しています。来年の2月頃にオープン予定と聞いておりますので、皆様楽しみにしておいて下さい。



(工芸館内コラボレーション商品の展示を囲んでの1枚)

*学生GP(地域連携型卒業研究)とは、地域企業・地域社会から募集した研究テーマを学生が卒業研究として行うもので、現実問題を解決する主体になる経験を通じて、卒業後にも応用可能なさまざまなスキル・能力を涵養することを目指すものです。

熊本県立大学未来基金への御協力に、心よりお礼申し上げます。

御寄附の状況(平成27年1月1日～6月30日)

1,252,507円(個人5件、法人・団体等1件、古本募金)

寄附者御芳名(敬称略)

100万円 一般財団法人 未来会(奨学金として)

お名前のみ掲載(50音順)

井上昭夫、岡本哲夫、三島淑臣名誉教授ご遺族

※お名前の掲載を希望されなかった方 2件
古本募金 5件

基金創設(平成21年9月)以来の寄附金総額は、
126,604,762円(申し出分を含む)となりました。

平成26年度 基金活用実績

奨学金 5,630,000円

西部電気工業奨学金 3,960,000円

同窓会紫苑会奨学金 1,600,000円

短期派遣留学生支援奨学金 70,000円



皆様からの御支援、御協力をお願い申し上げます。

古本募金に御協力ください

不用の書籍、CD、DVDを御寄附いただき、熊本県立大学未来基金において、本学の教育研究に役立てる取組です。ぜひ御協力ください。

<インターネットでの申込みの場合>

梱包

書籍、CD、DVDを段ボール箱に詰めてください。(インターネットでの申込みの場合、申込書の封入は不要です。)



申込

「熊本県立大学 古本募金」ホームページのお申込みフォームに必要事項を入力してください。



発送

指定のお時間に宅配業者が伺います。5冊(点)以上は送料無料です。

※提携会社バリューブックスにて買い取られ、その売却代金が「熊本県立大学未来基金」へ寄附されます。
※電話での申込みも可。バリューブックス0120-826-292へ。「熊本県立大学 古本募金」とお伝えください。

詳細はホームページへ

<http://www.furuhon-bokin.jp/pu-kumamoto/>



熊本県立大学古本募金

検索

人事情報

名誉教授の称号授与(平成27年6月9日)

永尾 孝雄氏 (元総合管理学部 教授、専門分野:法哲学)



名誉教授称号授与式

おすすめの1冊

「ジムに通う人の栄養学」



著者 岡村浩嗣
(講談社 2013年3月刊)

平成25年国民健康・栄養調査の結果によると運動習慣を有する者は国民の約3割と報告されており、特に65歳以上の運動習慣者は増加傾向にあります。

体を動かす目的は競技成績の向上や健康のためなど人それぞれです。体を動かすときに考慮する必要があるものが栄養・食事です。栄養・食事の効果と体を動かすことの効果は相互に影響します。たとえば、体を動かさず食べると体脂肪が合成されて太りやすくなる一方、体を動かして食べると筋肉の合成が促進されやすくなります。また、同じものを食べても運動前後の摂取タイミングが異なれば栄養効果が変わってきます。

本書はアスリートのみを対象にした本ではなく、健康のために体を動かしたり、余暇でスポーツをしている方が日頃の運動と栄養・食事の効果を高める情報を科学的なエビデンスに基づいてわかりやすく紹介してくれています。本書を通して自分の生活習慣を振り返ってみても良いかもしれません。

環境共生学部 講師 吉村 英一



